

## はじめに

私たちの主イエス・キリストの肉体の昇天は素晴らしい出来事なのに、よく見過ごされることがあります。しかし、福音書を書いたルカはそうではありませんでした。それどころか、彼はキリストの昇天に関して2つの記述を残しています。1つは「ルカによる福音書」の終わりで、もう1つは「使徒の働き」の冒頭です。ルカがどこまでを福音書に記し、どこからを使徒の働きに記すかの分け目となったのは、十字架でもよみがえりでもなく、昇天でした。

この出来事そのものを見ていく上で、まず9-10節を読みましょう。キリストの昇天は、その御体が物理的に引き上げられたのですが、まだ不思議なことがあります。人の性質を持っておられたキリストがこの地上を離れて天の御父の元へと戻られたのですが、「宇宙空間」を通って行かれたではありません。キリストはこの世界から別の世界へと行かれました。後に来る時代の準備が整ったので、この時代を去られたのでした。「雲に包まれて、見えなくなられた。」(9節)

しかし、イエス様はなぜ去らなければならなかったのでしょうか。昇天の場面でルカはこの問いに答えてくれています。使徒たちも疑問に思っていたようです。イエス様ご自身の言われたことと、彼らのそばにいた天からの人々が言ったことから、2つの答えがわかります。ひとつは、イエス様が去らなければならなかったのは、使徒たちが聖霊を受けるためでした。もうひとつは、イエス様が天に上って行かれたのと同じ有様で、またおいでになるからでした。

つまり、昇天の結果、イエス様は肉体では私たちから離れておられても、聖霊様によって私たちと一緒にいてくださるということです。

## A 聖霊様により共におられる (1-8 節)

### 1. イエス様は使徒たちに聖霊様を待つように言われた。(3-5 節)

ご自分が生きていることを使徒たちに示された後のイエス様は、彼らにエルサレムで聖霊様を受ける用意をしておくことだけを語られたことに注目しましょう。

### 2. 使徒たちは今すぐに栄光を見たい (6-7 節)

これは、使徒たちの期待したものとは違っていました。福音書にも見られるように、彼らはイエス様の使命をいつも誤解していました。彼らが期待していたのは、イスラエルの民がエジプトから救い出されて、ヨシュアによって約束の地に導かれたような救世の様でした。イエス様の十字架とよみがえりこそが本物のエジプト脱出なのですが、使徒たちはイエス様が彼らの「ヨシュア」になり、ダビデ王の頃のように再興されたイスラエルへ人々を導いてくださることを期待していたのです。そして、今日もまだ、それを待ち続けています。しかし、イエス様はその日は御父のご計画の内に隠されていると彼らに言われました。まだ終わってはいないのです。

### 3. イエス様は聖霊様によって勝利される (8 節)

主人にとって真理であることは、そのしもべにとっても真理です。イエス様がエマオへの道で弟子たちに答えて言われたこともそうです。(ルカ 24:26) キリストはまず苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入ります。イエス様が弟子に言われたことはこうです。「あなたがたはまず宣べ伝えて、それからあなたがたの栄光を見るのです。」では、彼らはどうやって宣べ伝えるのでしょうか。それは、聖霊様の御ちからによってです。

イエス様は昇天されましたが、私たちに証人となる力を与えてくださる聖霊様を通し、勝利された救い主、王として治め続けられます。しかし、それは使徒たちが期待していたものではありませんでした。それは、武器によって獲得した地上での栄光ある王国ではなく、証人の言葉によっ

て広がった霊的な王国です。イスラエルという国家ではなく、サマリア人やローマ人も含めた世界的な王国です。昇天されたイエス様が治められるのは、一部の地域のための物理的な王国ではなく、世界全体の霊的な王国です。

使徒たちが忘れてしているのは、モーセの出エジプトとヨシュアの征服の間に、荒野をさまよう長い年月があったことです。

- 私たちは聖霊様と、彼の用いられるもの(御ことば、聖礼典、祈り)に満足していますか。それとも、いつも目に見える栄光を求めていますか。
- 伝道することを真剣にとらえていますか。
- 謙遜であることが大切だと思いますか。すべての栄光の神様は、目に見える栄光ではなく、聖霊様の証しを通して御子イエス様の王国を広げることを選ばれました。このことから、神様が最も大切だと思われることに関して何が学べますか。

## B 肉体の不在

なぜ私たちは今を荒野の時代と言うのでしょうか。それは、イエス・キリストが人として私たちと一緒におられないからです。

### 1. イエス様は、人としては私たちと一緒におられない

イエス様が天に上げられ、雲に包まれるのを使徒たちがじっと見つめていたことからわかるように、イエス様は本当に行ってしまったのです。3年間全てを分かち合った彼らの主が行ってしまったのです。神様の御子はおひとりですが、神と人という2つのご性質をお持ちです。イエス様のご性質の両方ともにつながらずに、イエス様とつながることはできません。しかし、イエス様の人としてご性質は、本当に人としてのものです。ですから、イエス様は一度にひとつの場所にしか存在することがおできになりません。そしてその場所は、栄光あふれる天の御父のそばです。私たちがイエス様とする会話は全て聖霊様を通してなされます。私たちは物理的にイエス様と一緒にいることができないのです。

### 2. イエス様の不在は、再臨を待ち望む思いを私たちに与える

イエス・キリストの昇天を全て理解することで、終わりの日を待ち望む思いが与えられます。新約聖書全体でこのような思いが見て取れますが、私たちクリスチャンの生活ではそうでもありません。私たちは、聖霊様を通してイエス様とられることに感謝はしているのですが、神様と「霊的」にだけつながっているという現在の状況に満足してしまっている可能性があります。そうすると、霊的なものを誇張しがちになり、聖書の教えに基づくキリスト教とは異なってしまいます。

御子は素晴らしい贖いの御業の全てを、人としてのご性質にかなった形でなさいました。御誕生、従順な生き様、死、よみがえり、昇天、現在も続けられているとりなし、そして再臨です。

キリストの昇天は、私たちにこの素晴らしい真理を思い出させてくれます。私たちは話の終わりまで、満足してはいけません。

### 3. イエス様が物理的に共におられないことと、霊的に共におられることのはざままで生きる

1. あなたの今の歩みはどうですか。コロサイ 3:1-4
2. 聖霊様が与えられてからイエス・キリストが再臨されるまでの間には、あわれみの時があります。あなたは神様のあわれみを受けますか。